

《担当者名》長谷川 聡(非) haseg@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

介護実習およびその関連科目学修に際して必要な要介護当事者・家族・住民・職員とのコミュニケーションに関する知識と技術・技能について、イメージ形成とマインド醸成を主眼に基礎から学ぶ科目である。

【学修目標】

- 1) 介護専門職に必要なコミュニケーションスキルと人間関係について理解するために、対人および集団コミュニケーション訓練を体験する。
- 2) 要介護者を対象別に、家族・地域・職場とのかかわりを役割別に俯瞰して「コミュニケーションへの配慮」、「傾聴的態度」、「ことばの介助」を説明して実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	シラバスと学修方法を説明できる。 学生の個別学習ニーズを自ら説明できる。	長谷川
2	コミュニケーション演習 1	コミュニケーション基礎となる表現と関係性への集中と開放を体験し、これを言語化して説明できる。	長谷川
3	コミュニケーション演習 2	表現と受容の過程に着目して非言語コミュニケーションを体験し、これを言語化して説明できる。	長谷川
4	コミュニケーション演習 3	ロールプレイングの基礎となる演技法と役割行動を体験し、これを言語化して説明できる。	長谷川
5	コミュニケーション演習 4	ロールプレイングの基礎となる仮想行動の自他観察と振り返り技法を体験し、これを言語化して説明できる。	長谷川
6	コミュニケーション演習 5	言語コミュニケーションの評価と自己覚知のために、プロセスレコード分析手法を理解して実行できる。	長谷川
7	コミュニケーション演習 6	コミュニケーション場面のプロセスレコードをケースワーク理論に照らして分析する手法を体験し、理論と実践の関係性と有効性を説明できる。	長谷川
8	コミュニケーション演習 7	インターク場面のロールプレイから半構造化面接技法の実際を体験し、来談者対応、観察、記録の留意点を検討して説明できる。	長谷川
9	コミュニケーション演習 8	インターク場面のロールプレイから傾聴技法の実際を体験し、自他を観察する留意点について検討して説明できる。	長谷川
10	コミュニケーション演習 9	介護場面におけるロールプレイから被支援者と支援者の関係性と相互作用を体験し、支援者の関わりかたの留意点を検討して説明できる。	長谷川
11	コミュニケーション演習 10	グループファシリテーション(レクリエーション活動等)のロールプレイによるファシリテータ役を交互に体験、その役割と技能の実際を検討して説明できる。	長谷川
12	コミュニケーション演習 11	グループファシリテーション(グループカウンセリング等)のロールプレイによるファシリテータ役を交互に体験、その役割と技能の実際を検討して説明できる。	長谷川
13	コミュニケーション演習 12	小グループでの説明と発表を体験し、その意味・目的・価値について検討して説明できる。	長谷川
14	コミュニケーション演習 13	大グループでの説明と発表を体験し、その意味・目的・価値について検討して説明できる。	長谷川
15	中間総括と討議	演習と体験を総括し、その意味・目的・価値について	長谷川

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		検討して説明できる。	
16	介護コミュニケーション論概説	コミュニケーションの原理と、介護におけるコミュニケーション技術の意義、目的について検討して説明できる。	長谷川
17	対象別コミュニケーション1	高齢者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明できる。	長谷川
18	対象別コミュニケーション2	認知症者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明できる。	長谷川
19	対象別コミュニケーション3	聴覚障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明できる。	長谷川
20	対象別コミュニケーション4	言語障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明できる。	長谷川
21	対象別コミュニケーション5	発達障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明できる。	長谷川
22	対象別コミュニケーション6	高次脳機能障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明できる。	長谷川
23	対象別コミュニケーション7	精神障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明できる。	長谷川
24	役割別コミュニケーション1	家族の関わりとそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明できる。	長谷川
25	役割別コミュニケーション2	地域の関わりとそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明できる。	長谷川
26	役割別コミュニケーション3	他職種・多職種連携のコミュニケーションへの配慮について検討して説明できる。	長谷川
27	役割別コミュニケーション4	職場におけるコミュニケーションへの配慮について検討して説明できる。	長谷川
28	介護コミュニケーション総括1	コミュニケーションの原理と基本事項を振り返り、体験と知識学習に基づいて再び検討して説明できる。	長谷川
29	介護コミュニケーション総括2	ケアリングとケアリング・コミュニケーションの基本事項を振り返り、体験と知識学習に基づいて再び検討して説明できる。	長谷川
30	全期総括と振り返り	介護コミュニケーション論全プログラムを振り返り、今後の学修課題を検討して説明できる。 期末課題を説明する。	長谷川

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業参加（討議発言、ロールプレイ参加、リアクションシート）70%、期末課題30%。

【教科書】

「介護初任者研修テキスト2 コミュニケーション技術と老化・認知症・障害の理解(第5版)」小池将文・森繁樹監修 日本医療企画

【参考書】

「保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門」石川ひろの著 大修館書店

【備考】

この科目は介護福祉士国家試験受験資格のための領域「介護」の教育内容の「コミュニケーション技術」に該当する。

Google Classroom, Google Driveを用いた遠隔授業教材・課題を用意している。Classroomのストリームを講義進行に合わせて逐次公開するので積極的に活用してオンライン自習することが期待されている。

全期通じて授業時にも情報ツールを利用するので、スマホ、タブレットやパソコンなどを持参することが望ましい。

教科書は前・後期で異なるが、前期開始時に両方とも入手しておくことが望ましい。

【学修の準備】

各回の授業内容に示したテキスト当該部分を事前に通読音読し、難読漢字は必ず調べて振り仮名を振るなどして「読める」ようにしておく。初出専門用語はネット上の専門サイトで定義や解説を調べて記録する。(予習2時間)
授業終了後はリアクションシートを入力提出するとともに、教科書・参考書および授業時に紹介する参考資料を参照しながら、ロールプレイ等の学習体験を振り返り言語化してノートを作成する。(前期、復習2時間)
授業終了後はテキスト当該部分を再読してリアクションシートを入力提出するとともに、グループで連絡を取りながらグループ課題を作成提出する。(後期、復習2時間)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1： 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。
DP4： 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【実務経験】

行政職員(身障更生相談所福祉技術職)、社会福祉法人理事長

【実務経験を活かした教育内容】

相談機関・医療機関・社会福祉施設での実務経験を活かし、高齢者・障害者とその家族の相談やケアの方法、あるいは関連機関・関連職種・地域住民との実践的コミュニケーションスキルを修得する。